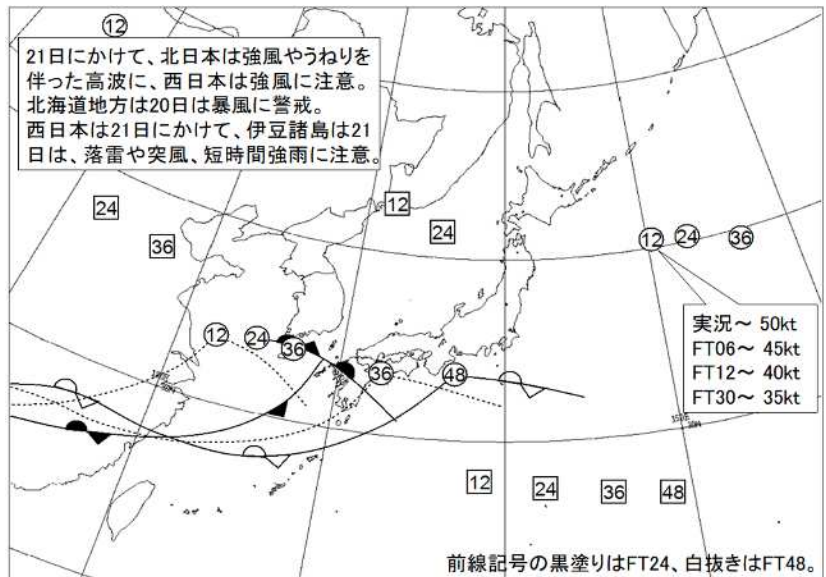


1. 実況上の着目点

① 日本の東の500hPa5400m付近に-18℃以下の寒気を伴った寒冷渦があって東進。寒冷渦直下の日本の東には発達中の低気圧があって北東進。北日本では気圧の傾きが大きくなっているため、風が強く吹いてうねりを伴って波が高くなっている所があり、東日本太平洋側でも低気圧からのうねりが入り、波が高くなっている所がある。

② 華北～華中にかけての500hPa5700m付近にトラフがあって東進。対応して華中に前線を伴った低気圧があって東北東進。東シナ海では、低気圧や前線に向かって日本の南の高気圧の縁を回る下層暖湿気(19日21時の石垣島の高層観測では850hPa θ e330Kを観測)が、沖縄の南から流入。



主要じょう乱解説図

東シナ海では、低気圧や前線に向かって日本の南の高気圧の縁を回る下層暖湿気(19日21時の石垣島の高層観測では850hPa θ e330Kを観測)が、沖縄の南から流入。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①の寒冷渦は日本の東をゆっくり東進、21日は日本のはるか東に進む。対応して、1項①の低気圧は日本の東を東進、21日は日本のはるか東に進む。北日本は21日にかけて、動きの遅い低気圧に伴って気圧の傾きが大きい状態が続くため風が強く吹いてうねりを伴って波が高くなり、北海道地方では20日は非常に強い風が吹いてしける所がある。強風やうねりを伴った高波に注意し、北海道地方は暴風に警戒。

② 1項②のトラフは20日朝に黄海付近に進み、その後、浅まりながら20日夜には東日本に進んで不明瞭化。対応して1項②の低気圧は、20日夜にかけて黄海に進んで前線は閉塞。その後、この低気圧は、トラフが浅まりながら先行するため21日中に黄海で不明瞭となるが、21日夜にかけて前線は東シナ海から日本の南を通り、伊豆諸島付近にのびだし、前線上の低気圧が日本の南に進む。

低気圧や前線に向かって、850hPa θ e336K以上の下層暖湿気が流入、大気の状態が不安定となる所があり、特に低気圧の暖域の九州の西では850hPaの風速が最大50kt前後と強まり、対流雲が発達して降水が予想よりも強まるおそれがあるので留意。西日本は21日にかけて、伊豆諸島では21日は、落雷や突風、短時間強雨に注意。また、九州北部地方や四国地方では21日にかけて、低気圧や前線周辺で気圧の傾きが大きくなるため、風が強く吹く所がある。強風にも注意。

なお、南西諸島では20日～21日にかけて、500hPaは負渦度場で目立った下層収束も予想されていないため大規模に大気の状態が不安定になることはないが、高気圧の縁を回る850hPa θ e330K以上の下層暖湿気が沖縄の南から流入するため、局地的な対流雲の発達には留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(06時から24時間):九州北部100mm。

②波浪(明日まで):北海道4、東北3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。